

2-6

書体及び  
文字サイズ

(1) 書体

サインに使用する書体については、以下の内容を基本とします。

- ・ サインに使用する書体は、視認性に優れた角ゴシック体を基本とする。
- ・ 周辺景観に応じて、明朝体が有効な地域においては、明朝体の使用について個別に協議すること。
- ・ 誘導サインにおいては、一箇所のサインに用いる書体は必ず統一し、ゴシック体と明朝体の混在が無いようにする。
- ・ 多国語併記においても統一感のある書体を用い、併記中にゴシック体と明朝体の混在が無いようにする。
- ・ 施設名称が極端に長い場合や、表示面積に限りがある場合、やむを得ず適宜長体（文字幅の縮小）を用いることが出来るが、各書体に応じた可読性を確保するものとする。(図2-7)

図2-6に示す書体は参考書体とします。参考に使用したヒラギノフォント（図2-6、1段目）は、高速道路の標識にも採用されていることから、移動中や遠距離からの視認性の面において機能的に優れた書体といえます。また、TBフォント（図2-6、2段目）は文字幅の狭いコンデンス設定も充実していることから、長い施設名称がある場合にも対応しやすい書体といえます。

■(図2-6) 基本参考書体

基本参考書体	
和文：ヒラギノ UD 角ゴシック W6 英文：Frutiger Bold	
<b>鎌倉市役所</b> Kamakura City Office	<b>北条高時腹切やぐら</b> Takatoki Harakiri Yagura
和文：TBUD ゴシック Std R 英文：Frutiger Bold	
<b>鎌倉市役所</b> Kamakura City Office	<b>北条高時腹切やぐら</b> Takatoki Harakiri Yagura
明朝体の参考書体	
和文：RF ナウ MB 英文：Rotis Serif Bold 65	
<b>鎌倉市役所</b> Kamakura City Office	<b>北条高時腹切やぐら</b> Takatoki Harakiri Yagura
和文：UD 黎ミン Pro Bold 英文：Rotis Serif Bold 65	
<b>鎌倉市役所</b> Kamakura City Office	<b>北条高時腹切やぐら</b> Takatoki Harakiri Yagura

■(図2-7) 長体(文字幅の縮小) について

長体(文字幅の縮小) を用いる場合の注意点
<p>(和文: ヒラギノ UD 角ゴシック W6 英文: Frutiger Bold の場合の参考)</p> <p>和文、英文とも文字幅は元の書体のまま</p> <hr/> <p><b>祇園山ハイキングコース</b> Gionyama Hiking Trail</p>
<p>和文長体 85%、英文長体 85%にしたもの</p> <hr/> <p><b>祇園山ハイキングコース</b> Gionyama Hiking Trail</p>
<p>和文長体 60% (元の書体の 60%の幅に縮小)、英文長体 50%にしたもの</p> <hr/> <p><del><b>祇園山ハイキングコース</b> Gionyama Hiking Trail</del></p>

※やむを得ず長体を用いる際は、和文、英文その他の言語とも85%程度までを目安とすること。

## (2) 文字サイズ

サインに使用する文字のサイズについては、以下の内容を基本とします。

- ・ 視認距離に応じた判読しやすい文字サイズ設定を行う。(表 2-12)

例) 視認距離 1 m の場合

14mm □ 長谷寺  
7mm □ Hasedera Temple

- ・ 多国語併記の際の読みやすさを考慮し、和文高さ 1 に対し英文高さ 0.5 の比率を基本とする。(図 2-8)
- ・ 表示面積が限られる場合や、特に強調したい文字がある場合は、全体の可読性を損なわない範囲で随時対応する。

■(表 2-12) サインまでの距離に応じた、最低限必要な文字高さの目安

サインまでの距離	和文文字高	英文文字高	想定される用途 (参考)
1m の場合	9mm 以上	7mm 以上	← 至近距離で見る地図など
5m の場合	20mm 以上	15mm 以上	
10m の場合	40mm 以上	30mm 以上	← ルート案内板を道路の反対側から見る場合など
20m の場合	80mm 以上	60mm 以上	
30m の場合	120mm 以上	90mm 以上	
40m の場合	160mm 以上	120mm 以上	

距離・文字高出典：  
交通エコロジー・モビリティ財団 (2001) .  
『ひと目でわかるシンボルサイン 標準案内用図記号ガイドブック』.  
株式会社大成出版社.

■(図2-8) 基本文字高さ比率

基本比率	
和文 1 に対し、英文 0.5 とする。4ヶ国語表記の場合は中国語、韓国語は英文同様 0.5 とする	
和文 1 <input type="checkbox"/>	<b>長谷寺</b>
英文 0.5 <input type="checkbox"/>	<b>Hasedera Temple</b>
和文 1 <input type="checkbox"/>	<b>名越切通</b>
英文 0.5 <input type="checkbox"/>	<b>Nagoe Kiridoshi Pass</b>
中・韓 0.5 <input type="checkbox"/>	<b>名越切通 나고에 키리도오시 절개지</b>
施設名称が長い場合や、表示面積に限られる場合	
和文 1 に対し、英文は 0.5、中国語、韓国語は 0.5 に近い最大限の大きさとする	
和文 1 <input type="checkbox"/>	<b>祇園山ハイキングコース</b>
英文 0.5 <input type="checkbox"/>	<b>Gionyama Hiking Trail</b> 祇園山登山路线 기온야마 자전거 코스 <input type="checkbox"/>
	中・韓 0.3 程度 (参考値)

2-7  
色彩

色彩の使用は、表示内容の判読性やサイン自体の視認性を高めることが目的です。同時に、サインとして機能的であるだけでなく、景観に調和し、鎌倉市らしさの創出に繋げることもサインにおける色彩の大きな役割です。よって、サインの表示（文字、ピクトグラム、地図等）に使用する色彩は、以下の点に注意するものとします。

## (1) 判読性に関わる色彩（文字・ピクトグラム）

文字やピクトグラムは、有彩色・無彩色に関わらず、地色（ベース色）と図色の明度差を十分に（明度差5以上）確保し、基本的に彩度6以下の控えめな色彩を用いるよう努めるものとします。

ピクトグラムの中で、JIS 化されている安全や禁止に関わるピクトグラムの色彩は、基本的に参考値に準ずるものとします。ただし、景観計画において基準のあるものについては、それを優先し、色彩を調整してください。

■(図2-9) 文字やピクトグラムの色彩

十分な明度差が取れている例	
	
明度差が足りず、判読性が低い例	
	
JISで参考数値が定められている場合	景観計画で基準が定められている場合
<p style="text-align: center;">景観計画に合わせ調整する</p>  <p>JIS 赤色参考値 マンセル値：7.5R 4/15 PANTONE：186C DIC：F101 日塗工：Y07-40X</p>  <p>JIS 緑色参考値 マンセル値：10G 4/10 PANTONE：335C DIC：F306 日塗工：Y49-40T</p>	 <p>マンセル値： 7.5R 4/6 または 7.5R 3/6</p> <p>「全国共通のデザインやコーポレートカラーであっても、彩度6を超える場合は図と地を反転させる、切り文字とするなどの配慮をする。」(景観計画より抜粋)</p>

JIS 色彩出典：JIS 規格番号 Z9101 および Z9103  
「安全色及び安全標識—産業環境及び案内用安全標識のデザイン通則」(日本工業標準調査会)

## (2) 鎌倉市らしさの創出に関わる色彩（地図等）

文字やピクトグラム以外の地図表現等においては、使用する色彩が鎌倉市らしさの創出に大きく影響します。山と海に囲まれた自然を有する鎌倉市の地域の魅力を伝えるため、地図等の表現においては、それらの要素が自然に見える色彩を使用するものとします。（山は緑系、海や河川は青系にするなど。）

また、広範囲に使用する色彩の彩度の上限は6を目安としてください。

## ■ (図2-10) 地図等の色彩

自然に見える色彩を、彩度を抑えて使用した参考例)



彩度が高すぎる例)

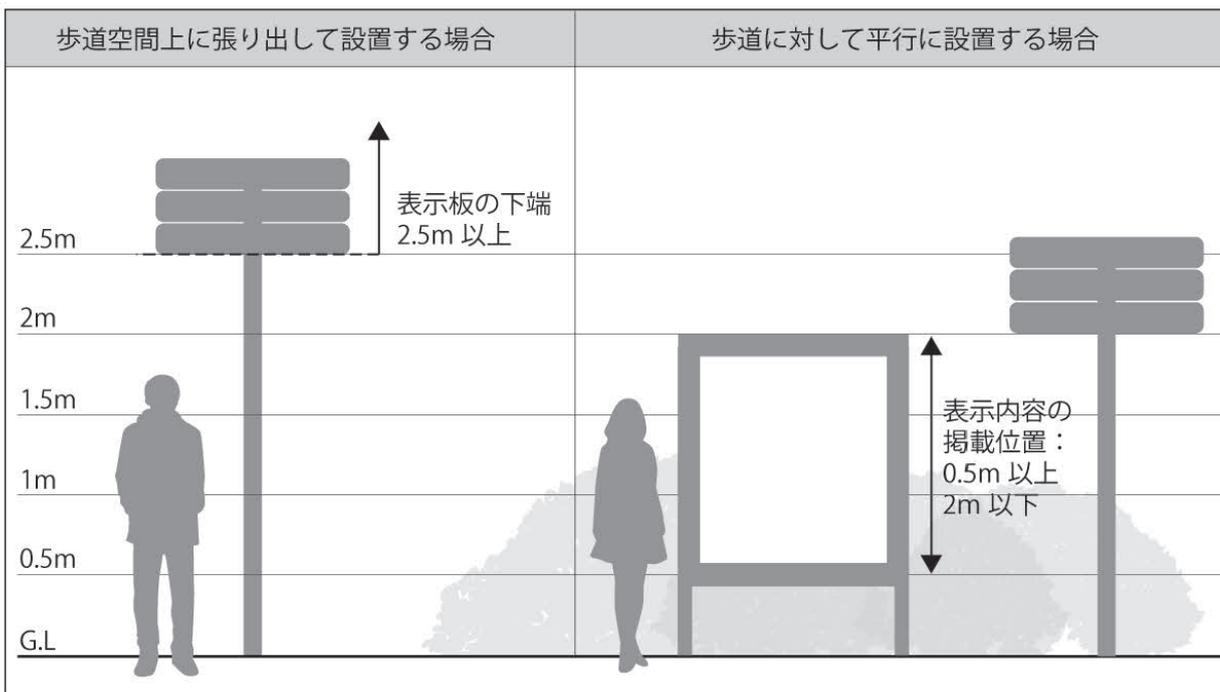


2-8  
サイン掲出の  
高さ・位置・地図  
の向き

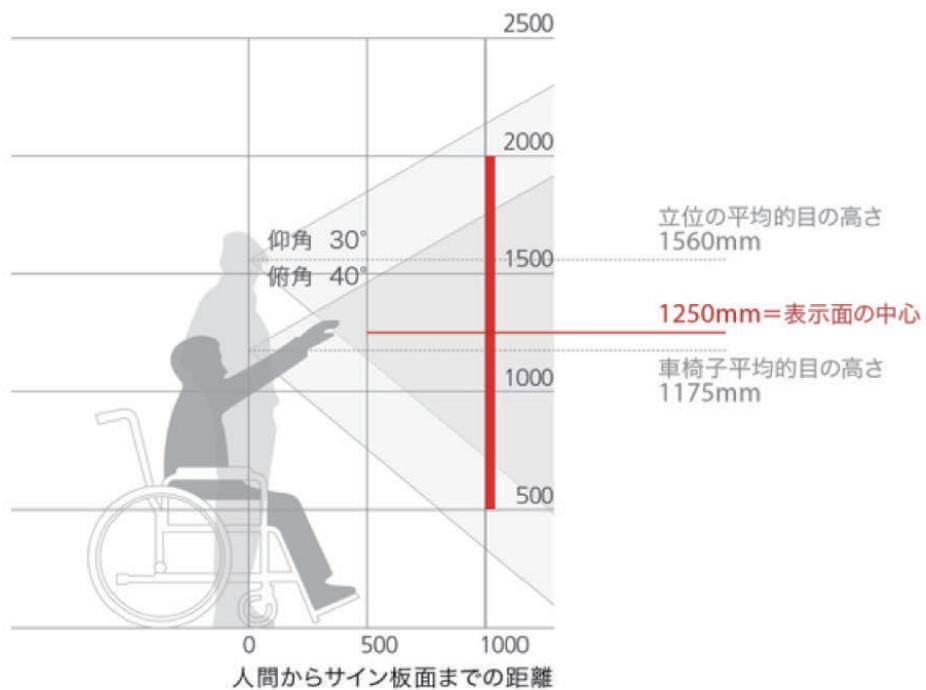
サインを掲出する際には、表示面の高さや位置において、以下の点に注意するものとします。

- ・ 歩道空間上に張り出す場合は、下端を路面より 2,500mm 以上（歩道の建築限界）確保する。（図 2-11）ただし、場所によって状況が様々であることから、随時担当課に相談のうえ決定すること。
- ・ 歩道に対して平行に設置する場合は、歩行者の見えやすい高さ 500~2,000mm の範囲に表示面を掲出する。（図 2-11）
- ・ 設置状況に制約がある場合（ガードパイプ設置等）は、できるだけ見えやすい高さに設置する。
- ・ 案内サインは、車いす利用者と立位の利用者の双方が見やすいよう、地図面の中心高さを 1,250mm 程度とする。（図 2-12）

■(図 2-11) サイン掲出の高さ



■(図2-12) 案内サインの表示の高さ

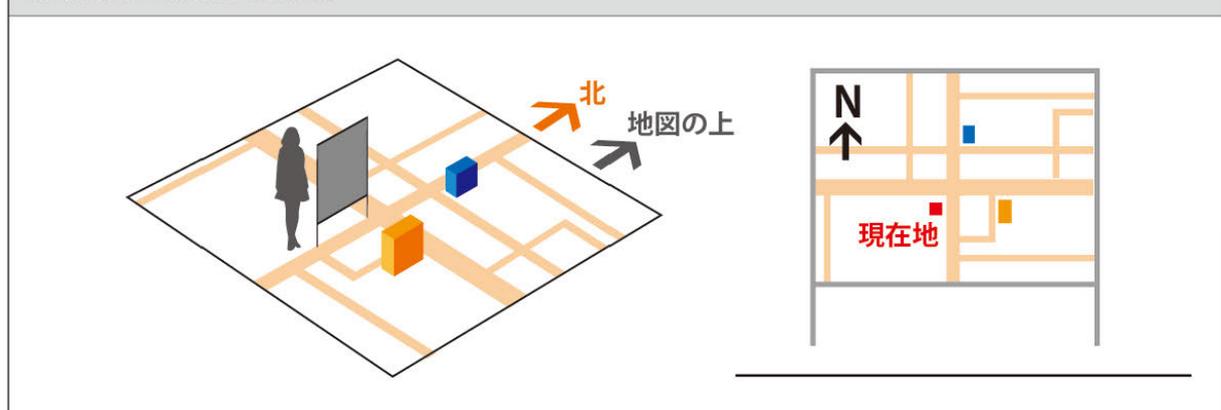


地図表現を有するサインを掲出する際の、地図の掲載範囲や地図の向きにおける基本的な考え方を以下に設定します。(図2-13) ただし、サインの目的や設置場所により柔軟に対応するものとします。

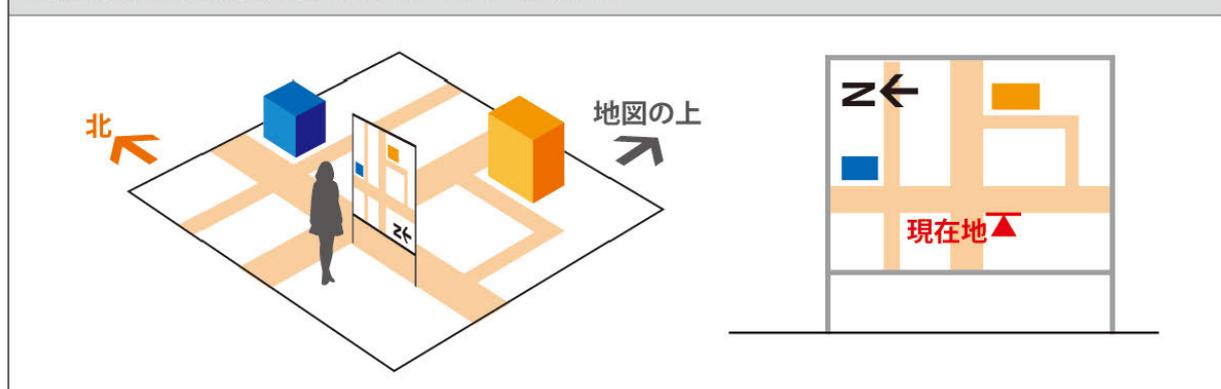
■(図2-13) 地図の掲載範囲と向き

地図の種類	地図に含まれるエリアと用途	掲載範囲	地図の向き
広域案内図	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内全域、近隣市区町村を表現</li> <li>公共交通機関も含めた行動の参考</li> </ul>	20km 四方	サインの方向に関わらず常に北を上にする
地区案内図	<ul style="list-style-type: none"> <li>主に旧市街地地域を表現</li> <li>主に徒歩による散策の参考</li> </ul>	5~10km 四方	サインに向かって前方を上にする
周辺案内図	<ul style="list-style-type: none"> <li>地図設置地域の周辺を表現</li> <li>徒歩による散策の参考</li> </ul>	2~3km 四方	サインに向かって前方を上にする

広域案内図の向き：北が上



地区案内図、周辺案内図の向き：サインの前方が上



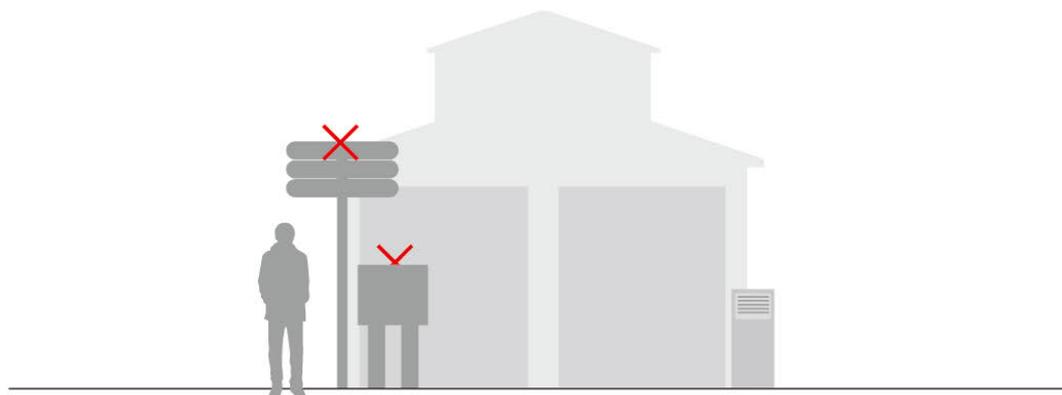
## 2-9 サインの設置 場所について

サインの設置場所については、以下の項目に配慮するものとします。

- ・ 通行の支障とならないことを前提に見やすい箇所に設置し、車椅子利用者や高齢者でも十分に近寄れるようにすること。
- ・ 地域特性上、文化財、歴史的建造物、細い路地、樹木類の自然環境等、設置場所の状況に応じて、景観を考慮するとともに、視認性を確保した場所に設置すること。(図 2-12)
- ・ 特に誘導サイン等においては、観光客への誘導を途切れさせないよう 300m～500m に 1 箇所程度配置することが望ましいため、その間の設置場所に関しては上記 2 項目に留意すること。(詳しいサインの配置の考え方は「3-1 案内・誘導サインの配置システム」及び「3-2 案内・誘導サインの設置位置」を参照のこと)

■(図2-14) 設置の注意点

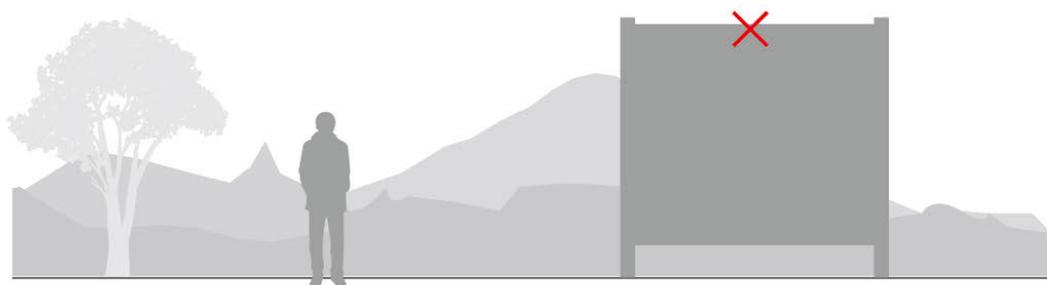
文化財や歴史的建造物周辺では、サインにより景観が阻害されないよう注意する。



植栽や自然樹木の多い箇所では、中長期的にサイン表示面が植物に覆われないよう注意する。



周辺景観に配慮し、サインにより風景が大きく阻害されないよう注意する。



## 2-10 素材、形態、モジュールと集約の考え方

サインは鎌倉市の景観に大きく影響するため、サイン本体(※1)の基本的な方針を以下に設定します。大きく分けて、素材、形態、モジュール(※2)と、モジュールを用いた集約の考え方は以下の通りです。

※1 サイン本体とは、サインの表示面を支える支柱やフレームなどを指します。

※2 モジュールとは、複数のかたちを体系化するために定める、設計の基本寸法を指します。

### (1-1) 素材 (メンテナンス面)

- ・ 屋外で年月が経過しても素材の美しさを保つことができるものなど、メンテナンス面を考慮する。
- ・ 必要に応じて、落書き・貼り紙防止機能の素材を用いる。
- ・ 海側に近いエリアにおいては特に防錆など、山側や急斜面の多いエリアにおいては土等での汚れなどを、特に考慮して選定する。

### (1-2) 素材 (景観面)

- ・ 周辺の緑や歴史的まち並みを生かすものを選定するなど、景観計画で設定されたエリア毎の基準に沿うこと。
- ・ 金属素地等、光沢のある素材や反射光が発生するようなものについては、必ず塗装やシート貼り等で対応する。

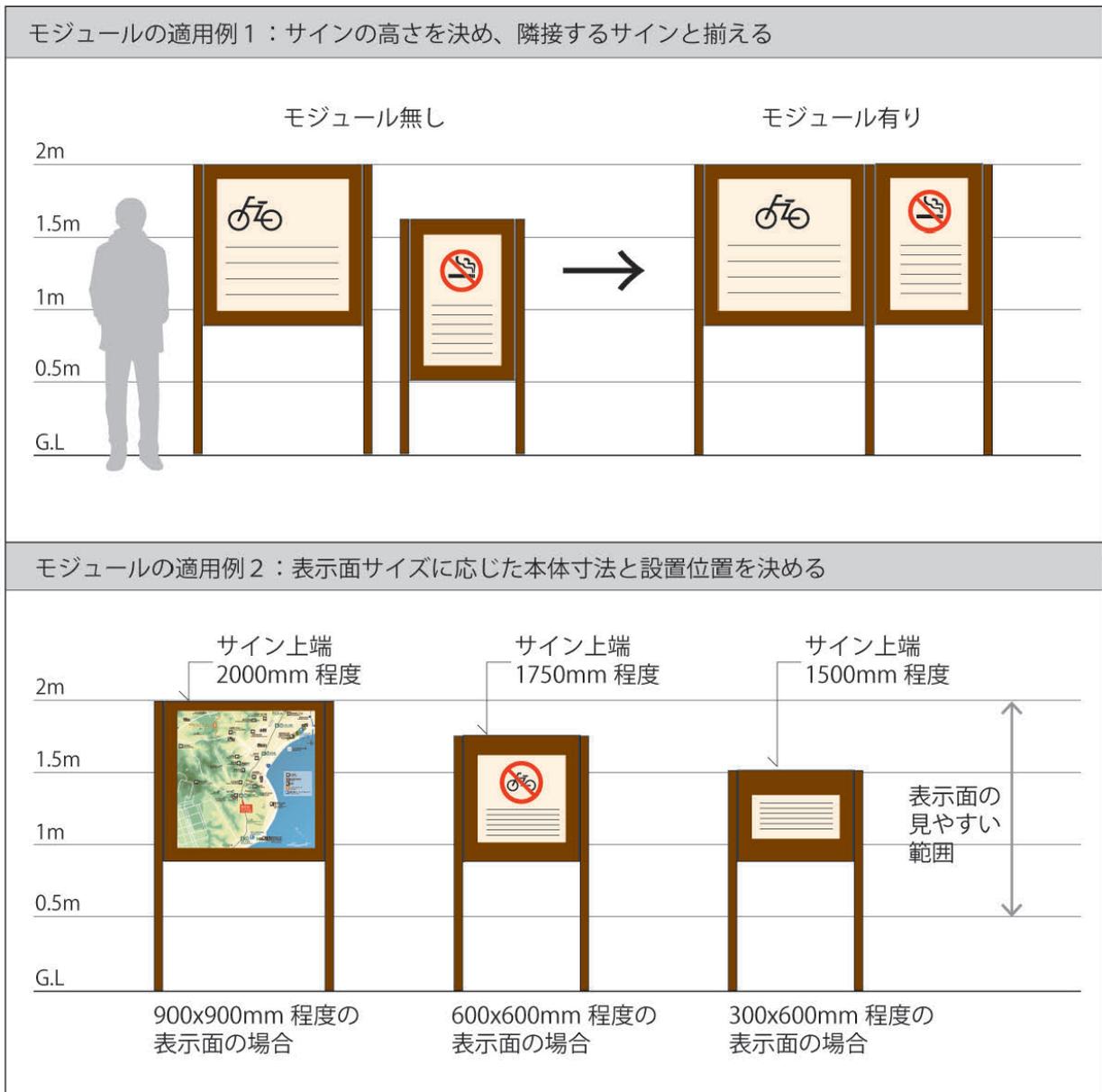
### (2) 形態

- ・ 豊かな自然環境、ヒューマンスケールな街路など、鎌倉市の地域特性と魅力に合った、コンパクトな大きさ、シンプルな形状とする。
- ・ 周辺環境と調和する形態とし、極端に突出した形態は避ける。

(3) モジュールと集約

「2-8 サイン掲出の高さ・位置・地図の向き」で示した通り、サインの見やすい高さ、掲出範囲は限られていることから、サインの寸法を体系化することはサインのデザイン、機能の両面において効果的です。同じモジュールが用いられたサイン同士は隣接しても違和感が無く、本体を一体化することも可能なため、結果的にサインの乱立防止につながります。

■(図2-15) モジュールを適用したサイン本体



2-11  
サイン本体  
色彩の考え方

サイン本体の色彩は周辺の景観に大きく影響を与えるため、景観を乱す恐れのない色彩として基本的に色相 10YR、明度 2.0、彩度 1.0 とします。

ただし、若宮大路ベルト（二の鳥居より北側）に位置するサインについては、色相 5G、明度 6.0、彩度 2.0 を、海浜ベルト（小動交差点より西）に位置するサインにおいては色相 10YR、明度 8.5、彩度 0.5 を、それぞれ景観計画に基づき設定します。

なお、サインの表示板裏面が露出する場合は、エリアに関係なく基本的に全て色相 10YR、明度 2.0、彩度 1.0 の色彩を施すものとします。

■(図2-16) サイン本体の基本色

